

ウエマツ

環境に優しい日本の 枚葉印刷工場

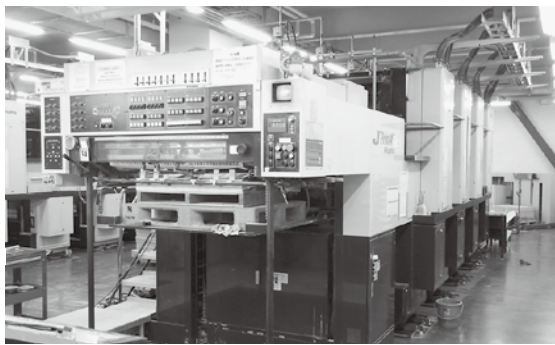
CO₂削減からリノベーションまで



ウエマツ・福田浩志社長

印刷、製本・後加工、配送に至るまで一貫通貫で印刷製造ニーズに応える株式会社ウエマツは、2010年に竣工した埼玉県戸田市の戸田工場をフラッグシップ工場として位置づけて、環境に対応した印刷会社としても操業している。同社の戸田工場は、それまで製造現場が抱えていた課題を解決すべく竣工したもので、その成果が認められ、2013年には、日印産連の第12回印刷産業環境優良工場表彰で経済産業大臣賞を受賞している。

ウエマツの旧本社工場は、西武池袋線の線路沿いにあり、事業成長と共に近隣の土地を買い足しながら規模を拡大していった。そのため最終的には都内11カ所に拠点が分散するなど作業の非効率化を招いていた。エリア的にも住宅が増加。近隣住民と、騒音・振動・臭気・土壌汚染および交通渋滞などの環境問題について協議しながらの操業だった。加えて、工場の老朽化に伴い、外気による工場への影響などの課題もあり、工場新設が必要とされ



水なし仕様にリノベーションして機能を向上させた菊全判4色機



徹底した廃棄物の分別を実践するリサイクルセンター

「新工場の竣工は、社員の夢でした」と語る同社福田浩志社長。2008年に工場建設計画を始動させ、2010年、「工場環境から出る印刷の変動要因を100%抑え込む」ことをコンセプトにした戸田工場が竣工した。新工場では、常に温度が25度±0.5度、湿度が50%±10%、水が純水製造装置により純水を使用するといった徹底管理を行っている。工場の稼働を支えるのが様々な環境活動。2008年に取得していたFSC森林認証に続き、戸田工場竣工に合わせて産業廃棄物のゼロエミッション活動をスタート。2011年には環境

方針を策定して「夏季の電力削減対策について」を発表。これに併せて、同年6月に電気の使用量を監視するデマンド装置も導入し、2012年には環境ISO14001認証を取得。グリーンプリンティング認定工場にもなっている。加えて2011年、長年工場稼働してきた菊全判印刷機を、水なし印刷機へリノベーションしている。リノベーションした印刷機は、最も古い機械が1996年から1997年製で、見当や水棒の調整などの準備時間がかかり生産性が低下していたが、リノベーションにより生産性が安定し、品質も向上した。同社全体の活動としては、環境マネジメントシステムを環境活動の基本に据え、各部署の若手・中堅社員によるコアメンバーが中心となって、現場主体の社員全員参加型で行っている。具体的には、産業廃棄物管理（ゼロエミッション活動）、CO₂抑制と省エネルギー管理（省エネ活動）、水なし印刷への取り組み、変動要因を抑えて印刷の標準化を確立して高品質・高生産を追求する「UCMS活動」、リーダーシップミーティングや5S活動、品質改善活動など企業力強化に向けた取り組み、地域に根差した広域的環境活動なども含まれる。

中でもゼロエミッションへの取り組みでは、廃棄物を集約するエリア「ウエマツ・リサイクル・センター」を設けて、解り易い分別活動を促進。廃棄物は26種類に細分化し、適正分別・適正保管・適正処理の3段階で分別するという。その結果、産業廃棄物は年間で1

90tから30tに削減。リサイクル率が向上した。省エネ活動では、例えば中空間を空調するという考え方を採用。工場全体の空調ではなく、印刷機1台毎に空調管理するという考えだ。空調室外機には、最新の空冷式モジュールを採用し、これにより従来のガス吸収式に比べてCO₂排出量を60%削減した。他にも、廃液削減装置、廃液タンクを導入することで廃液量を削減し、電動フォークリフトでの騒音防止、インキパイピングシステムによる生産の効率化、工場内専用の樹脂パレットの導入で余分なゴミの削減なども行っている。こうした様々な活動により、電気使用量は6.3%改善し、CO₂排出量も6.3%改善。生産効率についても、8.3%向上（年生産原単位）した。2016年には、戸田工場の照明約2000本（ダウンライト含め3000個）をLEDに切り替え、年換算で電力量が41kw、電気料金は400万円超の削減が期待できるといふ。

持続可能な社会を創造する

目指して稼働している戸田工場を中心としながらも、立つ印刷会社を目指している。グループ企業全体が、きめ細かく、顧客にとって役に